

永井先生の思い出

大 濱 し の ぶ

永井先生は、常に、優しい、心配りの行きとどいた先輩であった。殊に近畿大学法学部に奉職して、その間、様々に温かな御指導と優しい御心配りを頂戴した。その御恩は、言葉に尽くせない。近畿大学法学部は、若輩者の私を温かく受け入れ、退職する時もととてもよくして下さい。そして、そこには、永井先生の細やかな御心配りが常にあったと思う。

永井先生に初めてお会いしたのは、私が学部3年生の時、永井先生は、ゼミの先輩として、ゼミ生の指導にいらしていた。ゼミというのは、慶應義塾大学石川明研究会で、永井先生は、ドイツ留学から帰られて間もない頃であった。優しく親しみやすい先輩で、同期の、特に男子学生にととても慕われていた。その後、私は大学院に進んで、山梨県の大月市立大月短期大学に職を得たが、前任者が永井先生という御縁もあった。大月短期大学は、経済科のみの単科で、大変小規模であったので、近畿大学に奉職して、最初は戸惑うことばかりであったが、それでもすぐに慣れることができたのは、やはり永井先生の御心配りの賜物であったと思う。関西の地に住むのも初めてであったが、関西の色々なことを教えて下さったのも、永井先生であった。私にとって関西は第二の故郷であるが、この郷土愛は、今にして思えば、永井先生から教えて頂いた関西に関する知識を基にしている。

近畿大学法学部に奉職して間もない頃、永井先生が御自宅に招いて下さった。この時のことが、とくに懐かしく思い出される。先生は西宮にお住まいで、大学から御自宅に連れて行って頂く途中、私がカトリック信者

であるということで、夙川カトリック教会に寄って下さった。夙川カトリック教会は、阪神間初のカトリック教会であり、長崎の大浦天主堂を建て、いわゆる信徒発見（隠れキリシタンの発見）に至ったパリ外国宣教会の教会である。私は、あまり熱心な信者ではないが、由緒ある教会を訪れることができ、とてもうれしかった。永井先生は、ドイツ留学中にキリスト教に強く御関心をもたれたようであった。その日は、ツマガリという人気の洋菓子店にも寄って下さり、西宮の先生の御自宅では、奥様が温かく迎えて下さった。未だ色々と不慣れで、緊張の連続であった私にとって、なんとも楽しい一日であった。永井先生は、大変に愛妻家で、ドイツ留学中に御結婚された。奥様は先に亡くなられ、先生は、どんなにかお寂しかったと思う。晩年カトリックの洗礼を受けられたと伺った。先生の御心の内はわからないが、カトリックには、ドイツ留学そして奥様との御結婚につながるところがあったのではないかと憶測する。先生は、天国で、奥様とお幸せに過ごされていると思う。時に、先生が、故石川明先生と、ドイツのこと、民事訴訟法のことを楽しそうにお話されていることを想像する。そして、迷惑のかけ通しであった不束な後輩を赦して下さいることを切に願う。